

(独)selbständige Bedeutung / unselbständige Bedeutung

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/43356

独立の意味／非独立の意味 [(独) selbständige Bedeutung／unselbständige Bedeutung]

意味の領域における独立的と非独立的の区別。あるいは自義的と共範疇的との区別を基礎づける意味領域における区別。したがってここでも、非独立的内容は単独では存在しえず、より包括的な全体の部分としてのみ存在しうること、またこの存在不可能性は内容自身の本質に由来するアプリアリな法則性であるということが妥当する。もっとも意味はイデア的な統一体であり、意味の独立性／非独立性の区別を、意味された対象の独立性／非独立性の区別に単純に〈還元〉することはできない。たとえば赤さという非独立的契機は〈赤さ〉という独立的意味の対象である。結局、意味の独立性／非独立性はそれが基礎づける自義的／共範疇的の区別の中で最もよく例証される。なぜなら言語は区別可能なあらゆる意味形式に区別可能な各々の表現を付与しうるからである。またフッサール

によれば典型的な共範疇語のみならず、「トマトより赤い」や「氷の上で」のような複合的表現の意味も非独立的である。つまりある意味が一つの具体的な意味作用の完全な意味を形成しうる場合にそれは独立的であり、そうでなければ非独立的である [LU II/1 312]。この領域におけるアプリアリな意味法則は「緑はそしてである」のような無意味 (Unsinn) を排除し、普遍文法学を基礎づけるのに対し、本来の論理法則は「丸い四角」のような分析的反意味 (Widersinn) を排除する。⇒㊦共範疇語 [共義語], 独立性/非独立性, 無意味/反意味 (柴田正良)

-